

平成 24 年 4 月号

無症候性（むしょうこうせい）脳こうそく

あなたは無症候性脳こうそくという病名をご存じでしょうか？ 脳こうそくとは、脳血管の一部がつまったり、部分的に脳の血のめぐりが悪くなるために脳にキズがついてしまった結果、マヒやしびれ、呂律（ろれつ）が回らなくなるなどの症状を長く残してしまう病気です。最近、健康ブームの流行のためでしょうか、脳の検査をおこなう方が次第に増えてきていますが、その方々の中にはマヒやしびれなどの症状が全くないのにもかかわらず、小さな脳こうそくが見つかるケースが非常に多くなっています。

そのような場合、外見は健康でとても元気に見えるものですが、検査の上では脳こうそくという病気を持っていることとなります。このように症状のない脳こうそくは「無症候性脳こうそく」と呼ばれるようになりました。いろいろ調べてみますと、その頻度は六十五歳以上の健常者でなんと 3～4 割（十人中三～四人）にのぼるといわれています。

さらに最近の研究では、無症候性脳こうそくを持っている方は、その後の様子を長く見ていると無症候性脳こうそくを持っていない方と比較して、症状をとまなう脳こうそくの発病率が格段に高くなっており、注意すべきだと考えられるようになりました。加えて、無症候性脳こうそくの患者さんは将来において認知症やうつ病を起こしやすいこともよく言われています。

わが国において、寝たきりの原因となる病気の第一位は脳卒中です。したがって当外来では今後、脳卒中（脳出血と脳こうそく）の予防にいつそう力を入れていこうと考えております。特に脳こうそくに関して言いますと、血管の老化（動脈硬化）の進み具合と不整脈のあるなしの二点が問題になります。身内の方に血管の異常が原因で起こる病気、例えば脳出血、脳こうそく、くも膜下出血、心筋こうそくなどにおかかりになった方がいらっしゃる場合、以前にご自分が肥満・高血圧・糖尿病・コレステロール異常症の指摘を受けておられる場合、ひんぱんに動悸がしたり、すでに不整脈の診断を受けておられる場合などは十分に注意が必要です。

無症候性脳こうそくは痛みを伴わない検査で簡単に見つかります。当院では CT 検査を実施しています。CT 検査はレントゲンを用いた一般的な検査で、どこの病院でも日常的によく実施されています。この検査では脳こうそく以外にも、萎縮（脳の縮み具合）や脳血流の状態もある程度はわかります。この頃では予防医学が重視されるようになりました。私は「予防に勝る治療はない」と考え、症状がなくても検査をお勧めしています。